

第6学年国語科学習指導案

1 単元名 成長について考えよう「海の命」

2 単元の展開にあたって

— 教材のよさ —

本教材は、海という自然を舞台に、主人公の成長の姿が描かれている。この作品は、視点の置き方によって二つの主題を想定することができる。一つは、太一の一生に注目して、「一人の人間の成長」という主題が想定できる。一人の人間の成長には周囲の人間の存在が大きく関わってくることで、また、主人公太一にとっての海やクエのように、人間の成長の過程には何らかの影響をもつ事物や事象があることが書かれている。卒業を意識し始めたこの時期に、子どもたちに内省の目を培い、成長の姿を見つめさせるとともに、自分の周りの人や出来事を改めて見つめ直させることは意義深い学習になると考える。

もう一つは、「海のめぐみ」や「千びきに一びき」に象徴される父や与吉じいさ、さらには太一の行動や考え方に着目して、「人間と自然との共生」という主題が想定できる。自然破壊・環境保護が叫ばれる現代において、自然と共に生きる姿に出会わせることは、自分の生活を見つめなおすきっかけとも成り得るだろう。

物語全体が、起承転結のはっきりした構成であり、登場人物も場面ごとにはっきりしている。そのため、作品の主題を読み取るための場面分けや、読み確かめる視点の共有化もしやすいと思われる。

— 学年の子どもの実態 —

本学年の子どもたちは、1学期の「カレーライス」の学習の中で、物語の叙述をもとに登場人物の心情の変化を読み確かめたり、作品の書き表し方をもとに作者の伝えたい『成長』に対する自分の考えを作る学習をしてきている。細かな叙述に注意したり、文章全体の構成を考えたりすることで、根拠を明らかにした自分なりの読みができるようになってきているが、直感的に感じた読みにたよりに、自分の経験や体験とつないで考えを深めようとするまでには至っていない。また、伝え合いの姿として、自分の考えが相手に伝わるように積極的に話したり、友だちの考えを共感的な態度で聞いたりすることができているが、互いの考えを高める伝え合いのよさを実感しながら話し合う子どもが少なくない。一方的に話したり相手の考えをそのまま受けとめたりする伝え合いを振り返り、互いの考えを大切にしながら、考えをまとめたり新たな視点を示したりすることを意識した伝え合いが少しずつできるようになってきている。

— 学習内容と指導・支援の考え方 —

導入にあたっては、小学校の卒業を前に、命や生きることをこれまでに学習した内容と方法で問い直していくことを確認する。その後、本題材の「海の命」という題名と冒頭の部分より、登場人物と海の生命との出会いによって、太一の成長を問う全体のためあてを作らせる。亡くなった父の仇ともいえる巨大なクエを殺さなかった太一の変容を読み深め、確かめる学習計画を立てさせる。

深める段階では、本文にある、もぐり漁師として生きた父の「海のめぐみ」という言葉と、一本づりの漁を続ける与吉じいさの「千びきに一びきでいい」という考えをもとに自然の恵みの中で自然とともに生きる生き方を読み取らせ、「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」の違いから、太一の成長した姿として現れていることを読み取らせる。

まとめる段階では、「海の命」とは何かということについて自分の考えをまとめさせることによって、自然とともに生きる姿に共感させたい。また、自分が変わったと思える出来事や人との出会いを自由に出させ、これからの出来事や人との出会いに希望を持たせたい。

交流の場においては、発表の仕方、質問や意見の出し方を助言する。特に、友達の感じたことを批判するのではなく、受け止めた上で、違う感じ方を出させるようにしたい。

3 単元の目標

- 海の豊かさ、登場人物とのかかわりの中で、たくましく成長する主人公の生き方や考え方を読み取り、命や生き方を見つめ自分の生き方や考え方を創造することができる。
- ◎ 自分の読みを根拠を明らかにして話したり、友だちの伝えたいことを捉えながら聞いたりして、お互いの考えを大切にしながら話し合うことができる。

4 学習計画（全11時間）

段階 時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
ま か 11	1 本時のめあてを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元名と題名，冒頭を読んで，読みのめあてをつくろう。 </div>	
	2 単元名と題名について話し合う。 ・ 「成長」とは ・ 「海の命」とは	○ これまでの物語学習を振り返り，単元名にある「成長」とは，生き方や考え方の変化であることを確認する。 ○ 「海の命」の題名から，読んでみたいことを考えさせる。また，題名の「の」の働きを注意して読ませる。
	3 冒頭を読み，人物や場所，時間の設定をとらえる。 ・ 「ぼくは漁師になる。～」と子どものころから言いはばからない太一 ・ 大物をしとめてもじまんしない父 ・ 不漁の日が続いても，少しも変わらない父	※ 人物や場，時間の設定がわかる言葉に線を引かせながら読ませる。 ○ 「父はどんな漁師だったのか。」といった発問をし，登場人物を具体的にイメージすることができるようにする。
ま	4 単元名と題名，冒頭をつなぎ，読みのめあてをつくる。	○ 父の死を知った太一が，これからどんな生き方をしていくのか問題意識をもたせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 予想される読みのめあて 父をなくした太一はどのように成長し生きていくのだろう。 </div>	
え 11	1 本時のめあてを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 全文を読み，読みのめあての答えを書こう。 </div>	
	2 全文を読み，文章構成をつかむ。 ・ 6つの場面構成 3 父の死後，与吉じいさとの出会い クエをうたなかったことが太一の生き方の転換点となること	※ 人物や場，時間の設定がわかる言葉に線を引かせながら読ませる。 ○ 一行の空きと「中学校を卒業する年の夏」といった時間を表す言葉に着目しながら，場面を読み分け，文章構成をとらえさせる。
る	3 クエに出会う前とクエに出会った後の太一の生き方を読みのめあての答えとして書きまとめる。	○ 父の仇とも思えるクエを殺さない場面が，太一の生き方が大きく変わった転換点であることをおさえ，読みのめあての答えををまとめさせる。
		1 本時のめあてを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 読みのめあての答えを話し合い，疑問をもとに学習計画を立てよう。 </div>		
2 読みのめあての答えを話し合う。		※ 交流する集団を小集団にすることで，相違点を明らかにしながら交流ができるようにする。
3 疑問をもとに，読み方の学習計画を立てる。 ・ 太一は，なぜクエをうたなかったのだろう	※ 読みのめあての答えを，板書で整理し，読み確かめる視点を持つことができるようにする。	

4 / 11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太一の感情の変化 ・ クエの呼称の変容 ・ 「村一番の漁師」と「一人前の漁師」の違い 	<p>○ 読み確かめの視点を明確にしていく場面や文、中心となる言葉を確認する。</p>
<p>— 予想される読みのめあての答え —</p> <p>○ 父を破った瀬の主のクエをとることを夢に生きていく太一は、与吉じいさのもとで、村一番の漁師として成長する。やがて追い求めていたクエを目の当たりにしたとき、太一は、クエにもりを打たずに村一番の漁師として生き続ける生き方を選んだ。</p>		
<p>— 読み確かめていく視点 —</p> <p>○ 太一は、追い求めていたクエに、もりを打つことをなぜやめたのだろう。</p> <p>○ クエを討たずに、村一番の漁師であり続けたとはどういう生き方なのだろう。</p>		
ふ か 5 ・ 6 / 11 二 組 本 時 る	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>○ 追い求めていたクエに、もりを打つことをやめる太一の考えを読み確かめよう。</p> <p>2 登場人物のかかわりを振り返り、追い求めていたクエにもりを打つことをやめた太一の考えについて自分の考えを書く。</p> <p>○ 父の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「海の恵みだからな」 ・ 不漁の日が続いても、少しも変わらない <p>○ 与吉じいさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚を海で自然に遊ばせてやりたい ・ 「千びきに一びきでいい」 <p>3 追い求めていたクエに、もりを打つことをやめる太一の考えを話し合う。</p> <p>○ 太一の感情の変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「泣きそうになりながら思う」→「ふっとほほえむ」, 「もう一度えがおを作る」 <p>○ 「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」の会話文について話し合う。</p> <p>○ クエの呼称について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『瀬の主』 = 『海の命』 <p>4 自分の読みを振り返り、学習のまとめをする。</p>	<p>○ 太一の言動とクエの描写に線を引き、太一の気持ちの変化を捉えることができるようにする。</p> <p>※ 太一の成長に影響を与えた父と与吉じいさの生き方を考えの図としてまとめさせる。</p> <p>※ 父と与吉じいさの生き方の考えの図を比較して、自分の考えをまとめて書くことができるようにする。</p> <p>※ 根拠となる言葉を全体で確認し、自分の考えを書くことができるようにする。</p> <p>※ 事前に子どもの読みを把握し、話し合いの展開を組み立てておく。</p> <p>※ 交流する集団を小集団にすることで、相違点を明らかにしながら交流ができるようにする。その後、全体交流を行い、考えを深化することができるようにする。</p> <p>○ 泣きそうになりながら思い、やがては、ふっとほほえむ太一の姿から、太一の心の葛藤に気づかせる。</p> <p>○ クエの雄大な姿に父の姿を見た太一の考え方に気づかせる。</p> <p>○ 『瀬の主』と『海の命』の違いに着目することで、太一の考え方の変容に気づかせる。</p> <p>※ 伝え合いと読みの力の自己評価をさせる。</p>
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>○ 瀬の主のクエを討たずに、村一番の漁師であり続けたとはどういう生き方なのか読み確かめよう。</p>		

<p>ふ ／ 11 一 組 か 本 時</p>	<p>2 登場人物のかかわりを振り返り、村一番の漁師であり続けたとは、どういう生き方なのか自分の考えを書く。</p> <p>○ 太一の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村のむすめとけっこん ・ 子どもを四人育てた ・ 巨大なクエにもりを打たなかったことを生涯だれにも話さない <p>○ 太一の家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんな元気でやさしい子どもたち、男と女二人ずつ ・ 母はおだやかで満ち足りた、美しいおばあさんに <p>3 瀬の主のクエにもりを打たずに、村一番の漁師であり続けたとは、どういう生き方なのか話し合う。</p> <p>○ 「村一番の漁師」とは、どんな漁師なのか話し合う。</p> <p>○ 「あり続けた」とは、どんな生き方なのか話し合う。</p> <p>4 自分の読みを振り返り、学習のまとめをする。</p>	<p>○ 太一の言動と家族の描写に線を引き、太一の気持ちの変化を捉えることができるようにする。</p> <p>※ 太一の生き方を考えの図としてまとめさせる。</p> <p>※ 父と与吉じいさ、太一の生き方の考えの図を比較して、自分の考えをまとめて書くことができるようにする。</p> <p>※ 根拠となる言葉を全体で確認し、自分の考えを書くことができるようにする。</p> <p>※ 事前に子どもの読みを把握し、話し合いの展開を組み立てておく。</p> <p>※ 交流する集団を小集団にすることで、相違点を明らかにしながら交流ができるようにする。その後、全体交流を行い、考えを深化することができるようにする。</p> <p>○ 与吉じいさの言う「村一番の漁師」と比較し、6の場面での「村一番の漁師」の持つ意味について捉えさせる。</p> <p>○ 「あり続ける」ための時間や努力について考えさせることで、「あり続けた」生き方を捉えることができるようにする。</p> <p>※ 伝え合いと読みの力の自己評価をさせる。</p>
<p>ま ／ 11 と め る</p>	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="223 1288 1452 1366" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「海の命」の読みのまとめをし、『成長』について、自分の考えを深めよう。</p> </div> <p>2 「海の命」の学習を振り返り、『成長』について自分の考えを書く。</p> <p>3 登場人物の姿をもとに、『成長』について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太一の成長に影響を与えた父と与吉じいさの生き方や考え方 ・ 太一の生き方や考え方 <p>4 『成長』について、自分の考えを書きまとめ、発表する。</p>	<p>※ 父と与吉じいさ、太一の考えの図を活用して、自分の考えをまとめて書くことができるようにする。</p> <p>※ 事前に子どもの読みを把握し、話し合いの展開を組み立てておく。</p> <p>※ 交流する集団を小集団にすることで、相違点を明らかにしながら交流ができるようにする。その後、全体交流を行い、考えを深化することができるようにする。</p> <p>○ 学習を通して学んだ生き方や考え方を振り返り、自分の考えを深める。</p>
<p>11 ／ 11</p>	<p>1 成長をテーマとした作品を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立松和平さんの作品 ・ 生き方や考え方に関する作品 	<p>○ 『成長』をテーマとした作品のブックリストを作成し、生き方や考え方に対する考えを深めることができるようにする。</p>

第6学年 組国語科学習指導案

5 本時 6 / 11 6年 組教室

6 本時の目標

- 登場人物の相関関係や言葉の対比に着目した解釈をすることで、追い求めていたクエにもりを打つことをやめた太一の考えを読み確かめることができる。
- ◎ 考えの図を使って自分の考えを发表或し、友達の考えとの相違点を交流したりして、自分の考えを深めることができる。

7 本時学習を進めるにあたって

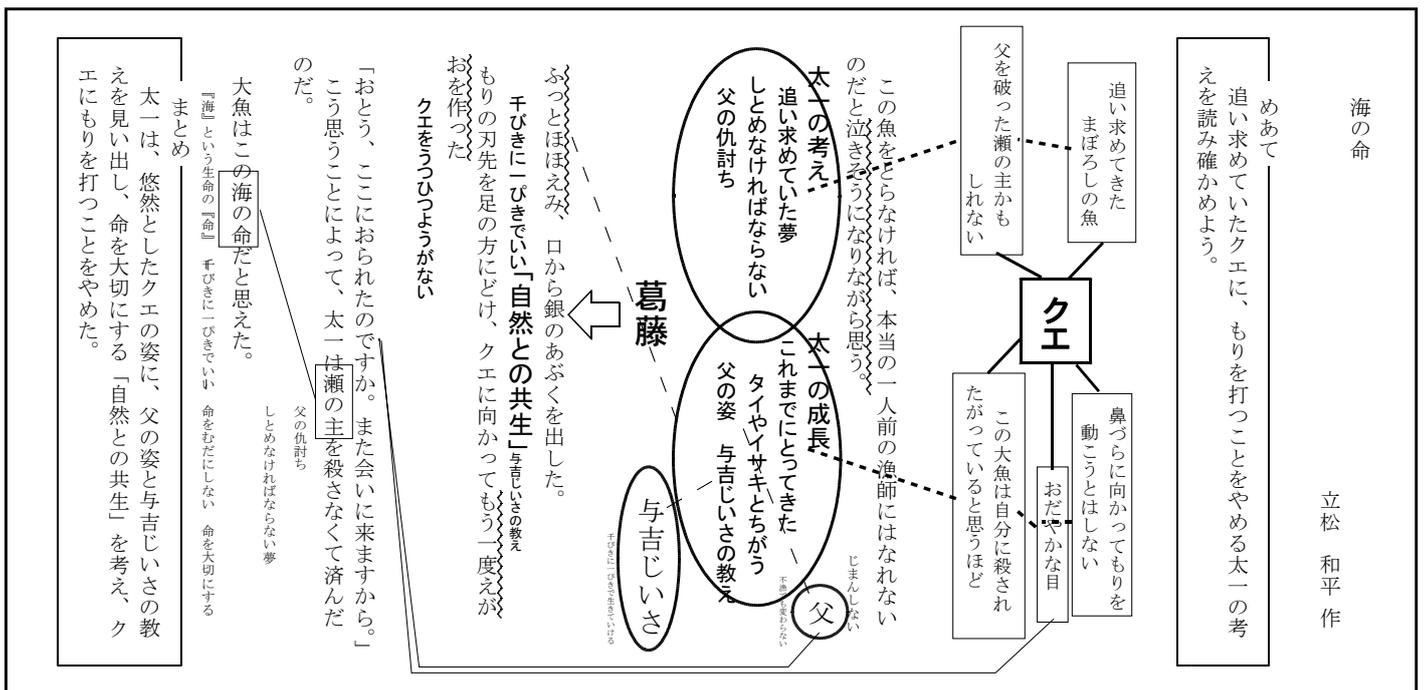
本時は、父の仇討ちとして倒すことを夢見、追い求めていたクエに出会った太一が、悠然としたクエの姿を目の当たりにしたとき、葛藤の中で、「自然と共生する」父の姿や与吉じいさの教えに気づき、もりを打つことをやめる太一の考え方を読み確かめることをねらいとしている。

前時までに子どもたちは、クエの姿と父、与吉じいさの生き方の考えの図を作り、父の仇討ちとしてクエを追う太一の願いと太一の成長に影響を与えた父と与吉じいさの生き方をつないで、クエにもりを打つことをやめる太一の考えの変化を自分の考えとして書きまとめている。

本時では、まず、学習計画をもとに本時で読み確かめるめあてを確認する。また、考えの図を使った発表の仕方を確認し、子どもたちが話し合いの見通しを持つことができるようにする。黒板には、悠然としたクエの姿を表す叙述、話し合う中心となる太一的心情描写と会話文、クエの呼称を板書し、視点を絞りながら交流ができるようにする。次に、夢にまで追い求めていたクエにもりを打つことをやめる太一の考えを小グループで交流し発表させる。小グループの交流では、友達の考えとの相違点をもとにした話し合いができるように、考えの図を活用させる。小グループより発表された内容を黒板に貼付し、「自然との共生」を考え、クエにもりを打つことをやめた太一の考えの変化を全体で確認する。また、全体の交流では、「泣きそうになりながら思い」、やがては、「ふっとほほえむ」太一的心情描写に、葛藤の中で「自然との共生」を選んだ太一の考えの変化に気づくことができるようにする。また、悠然としたクエの姿に父の姿を重ねる太一の考え方や、『瀬の主』が『海の命』と変わるクエの呼称の違いに着目することで、クエを『海』という生命の『命』と思い、命を大切にす太一の考えの変化にも気づかせていきたい。

最後に、登場人物の相関関係を板書でつなぎ、葛藤の中でクエにもりを打つことをやめた太一の考えの変化を図として書き表し、学習のまとめをする。

8 板書計画



9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
5	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画をもとに、本時の学習内容を確認する。また、考えの図を使った本時学習の進め方を確認し、子どもたちが話し合いの見通しをもつことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>追いかけていたクエに、もりを打つことをやめる太一の考えを読み確かめよう。</p> </div>		
5 1 5	2 めあてについて交流する。 (1) 話し合う中心となる叙述を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クエの姿を表す叙述 ・ 太一の心情描写と会話文 ・ クエの呼称 (2) 小集団で交流する。 ○ 太一の感情の変化について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「泣きそうになりながら思う」→「ふっとほほえむ」, 「もう一度えがおを作る」 ○ 「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」の会話文について話し合う。 ○ クエの呼称について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『瀬の主』 = 『海の命』 	※ 悠然としたクエの姿を表す叙述、話し合う中心となる太一の心情描写と会話文、クエの呼称を板書し、視点を絞りながら交流ができるようにする。 ※ 太一の成長に影響を与えた父と与吉じいさの生き方を考えの図を使って、クエにもりを打たなかった太一の考えを交流する。 ※ 交流する集団を小集団にすることで、相違点を明らかにしながら交流ができるようにする。その後、全体交流を行い、考えを深化することができるようにする。 ※ 小集団の交流では、全体で確認した根拠となる言葉について話し合うことで、考えをまとめることができるようにする。 ※ 全体の交流では、事前に子どもの読みを把握し、話し合いの展開を組み立てておく。 ○ 「泣きそうになりながら思い」やがては、「ふっとほほえむ」太一の心情描写から、クエを討ちたいという思いと命を大切に考える葛藤の中、「自然との共生」に気づく太一の考えの変化を捉えさせる。 ○ クエの悠然とした姿に父の姿を見た太一の考え方に気づかせる。 ○ 『瀬の主』と『海の命』の違いに着目することで、太一の考え方の変容に気づかせる。また、クエを『海』という生命の『命』と思い、命を大切に考える太一の考え方の変化にも気づかせる。
1 0 5	(3) 小集団で交流したものをもち、全体で交流する。 3 本時で読み確かめたことをまとめる。	○ 登場人物の相関関係を板書でつなぎ、クエにもりを打つことをやめた太一の考えの変化を図として書き表し、学習のまとめをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>太一は、悠然としたクエの姿に、父の姿と与吉じいさの教えを見出し、命を大切に「自然との共生」を考え、クエにもりを打つことをやめた。</p> </div>		
5	4 自分の読みを振り返り、学習のまとめをする。	※ 伝え合いと読みの力の自己評価をさせる。 ○ 話す、聞く、書くについて自己評価させ、次時の学習につなげる。

第6学年 組国語科学習指導案

5 本時 8 / 11 6年 組教室

6 本時の目標

- 「村一番の漁師であり続けた」太一の生き方を読み確かめることができる。
- ◎ 太一の考えの図をつくり、自分の考えを広げ、友達との相違点の交流をもとに、自分の考えを深めることができる。

7 本時学習を進めるにあたって

前時までに子どもたちは、太一が追い求めてきたクエをうたなかつたのは、「おとうのかたきをとる」よりも今までで出会ってきた人の「自然と共生」していく生きかたに影響を受けていて、それを選んだためということを読み取ってきた。

本時は、六の場面に出てくる「太一は村一番の漁師であり続けた」に着目し、「村一番の漁師であり続けた」とは太一がどう生きたのかを読み取り、太一の生き方を読み確かめていく場面である。

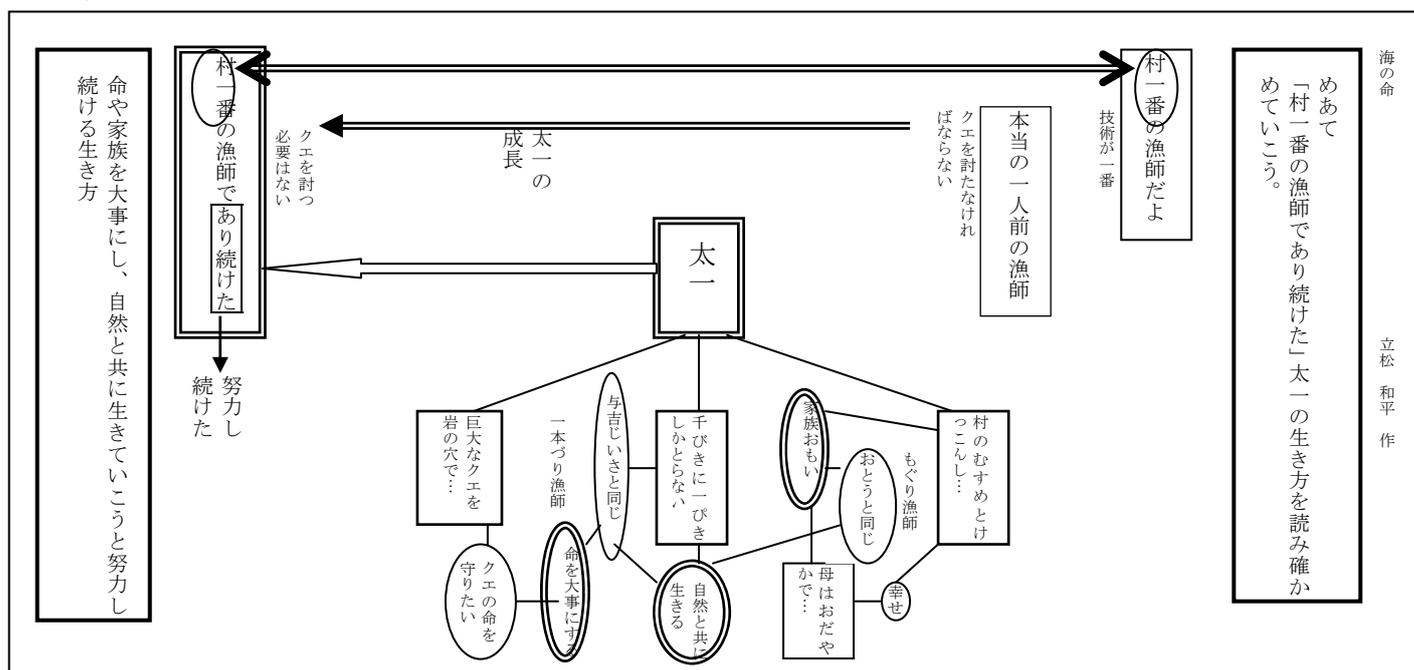
本時ではまず、学習計画をもとに本時で読み確かめていくめあてを確認する。また、考えの図を使った発表の仕方を確認し、子どもたちが話し合いの見通しを持つことができるようにする。

次に、自分で前時までに作成した考えの図をもとに読み取った、太一の生き方について小集団での交流を通してとらえた相違点を取り入れた深化した読み取りを新しく図化させる。その際「村のむすめとけっこんし…」では、母の姿にも着目させ、家族思いで幸せな生き方をしていることに気付かせる。また、「家族おもい」のところはおとうと同じであることも捉えさせる。「千びきに一びき…」では、「命を大事にする」や「自然と共に生きる」生き方に気付かせたい。また、その際、命を大事にしているのは与吉じいさと同じであることも捉えさせる。さらに、「自然と共に生きる」のはおとうの「うみのめぐみだからなあ」にあらわれるように、おとうにもつながっていることを確認する。「巨大なクエを…」では「クエの命を守りたい」という思いから、「命を大事にする」につなげさせたい。

そして、小集団で発表された内容を板書していき、新しい図を作成し、太一がどう生きたのか読み取り、太一の生き方を明らかにして読み確かめていく。その際、線が多くつながっているものをつながりのたびに囲み、視覚的にもその生き方が捉えやすいようにする。

学習のまとめにおいては、五の場面に出てくる「本当の一人前の漁師」と比べさせ、そのとき考えていた太一の漁師像と選んだ生き方はちがうことに気付かせ、そこに太一の成長があることを捉えさせたい。また、自分で生き方を選び、変えていった太一と自分自身を照らし合わせ、自分の「生き方」についての見方・考え方を広げさせる活動へとつないでいく。

8 板書計画



9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
1	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画をもとに、本時学習内容を確認する。また、図を使った本時学習の進め方を確認し、子どもたちが話し合いの見通しを持つことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「村一番の漁師であり続けた」太一の生き方を読み確かめていこう。</div>		
3	2 めあてについて交流する。 (1) 太一の言動を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村のむすめとけっこんし… ・ 千びきに一びきしかとらない ・ 巨大なクエを岩の穴で見かけたのに… 	※ 太一の言動の根拠となる叙述やそこから読み取れる心情をカードのヨコに色分けして書かせる。 太一に関する叙述…黄色 そこから読み取れる心情や太一以外の人物の言動…白
5	(2) 小集団で交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「村のむすめとけっこんし…」から読み取った太一の心情、成長した姿を交流する。 ○ 「千びきに一びき…」から読み取った太一の心情、成長した姿を交流する。 ○ 「巨大なクエを岩穴で…」から読み取った太一の心情、成長した姿を交流する。 ○ 交流してグループで深化した考えの図を作る。 	※ 自分の読みを小集団で交流しやすくするために譜面台を用いさせ、聞き手に聞きやすく、見やすくさせる。 ※ 考えの図が明らかになるように、小集団に一つ六の場面の太一の言動を記入したシートを配り、そこに交流して深化した読みを記入させていく。
25	(3) 小集団で交流したものをもとに全体で交流する。	○ 全体交流の中で、与吉じいさ、おとう漁の仕方は違うがどちらも同じ「自然と共に生きる姿」であることを線で結び視覚で捉えさせる。 ○ 全体交流の中で発表されていく、太一の言動から読み取った太一の生き方を線でつないでいき、全体として読み取った太一の生き方が分かりやすくなるよう線が多いものほど何重も囲んで目立たせる。
35	3 本時学習のまとめをする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">命や家族を大事にし、自然と共に生きていこうと努力し続ける生き方</div>		
40	(1) 五の場面に出てくる太一のそれまで目指していた「本当の一人前の漁師」と六の場面に出てくる、太一の選んだ生き方の「村一番の漁師」と比較し、太一の成長を確認する。	○ 「本当の一人前の漁師」…クエを討たなければならない、「村一番の漁師」…クエを討つ必要はないことを確認させ、その姿が命を大事にして、自然と共に生きていこうとする太一の成長した姿であることを捉えさせる。 ○ 自己評価を行わせ、自分の読みを振り返らせる。
40	4 今日の学習でを書く	